



うすい



第 21 号

佐倉市臼井地区社会福祉協議会 発行者 左奈田雄一 編集 広報事業部

震災から 1 年 子どもと災害要援護者を守るために 住民福祉懇談会開催

3.11 の大震災から 1 年が経過し、災害の復旧・復興の歯車が動き始めています。この震災を対岸の火事として見るのではなく、身のまわりにも起こり得る災害と受け止め、「我が地域の防災対策は大丈夫だろうか」を考えるため、「地域福祉と防災対策」をテーマに地域別住民懇談会を開催することにしました。(臼井小学校区 1 月 21 日 75 名参加、王子台小学校区 2 月 25 日 55 名参加)



臼井小学校区

懇談会は、佐倉市社会福祉協議会が行った被災地・陸前高田市でのボランティア活動(8月19日~21日)についての報告から始まりました。プロジェクターを使って、津波で流されて来た「がれき」を田んぼから除去する再生作業や、現在でも身元が判らない方の遺骨を預かる普門寺の状況、ボランティアセンターの対応などについて左奈田会長より説明がありました。

続いて臼井西中・宇津木校長、臼井小・糸川校長、王子台小・石井校長から、地震発生当日の対応、その経験によって見えてきた今後の課題等が報告されました。学校からは、特に登下校時あるいは下校後の対応について、今まで以上に地域住民の皆様を支えていただきたいとの協力要望がありました。

次に町内会・自治会の災害時の対応・取り組みについて、台町・宇田川さん、八幡台・高田さん、佐伯さん、ニッコー団地・松本さん、野口会・八木さん、稲荷台 4 丁目の白石さんから防災訓練の実施、安心カードの作成など活動報告がありました。



王子台小学校区

中でも地震直後に近所の高齢者宅を訪問した話では、どこのお宅からも不安や心配を訴えられたと同時に、訪問をととても感謝されたそうで、改めて声かけの重要性について感じました。

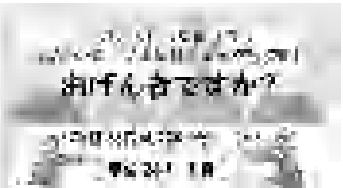
最後に、千葉県防災コーディネーターの植木利雄さんがまとめとして、要援護者の把握、地域としてどう対応していくかのマニュアル作り、それと同時に要援護者を助け出す人材の育成及びとなり近所との絆が重要であると話されました。

誰もがいつ要援護者になるか判りません。これからもそれぞれの立場から、何が出来るのか、何をしておけばいいのかについて考えていくことが大切だと思いました。

(大橋)

友愛訪問 「お久しぶりです。お元気ですか？」

★愛のメッセージ★



みぞれ舞う寒さ厳しい一月二十日、二十二名の福祉委員がひとり暮らしの高齢者のお宅へ、新春友愛訪問を実施しました。
朝、臼井田自治会館に集合し、まずはお届けの品(ティッシュ)と「愛のメッセージ」を担当地域別に仕分けして袋に詰めました。
今年の訪問先は百八戸(昨年は九十八戸)。訪問に際しては、事前に連絡をし、都合が悪いお宅には別の日に伺うなど、それぞれの福祉委員が工夫をしています。
玄関に出て待つ人、部屋を暖かくして待つ人たちと接することで、安否確認が出来ました。
訪問の先々では「ありがと」「かさばるので買物しにくいから助かるよ」といった声も聴かれ、会話もはずみます。

「足腰が痛い」という方もおいででしたが、ほとんどの方が自立した生活を送っておられ、安心しました。これを機会に、いろいろな行事への参加をお待ちしています。(長谷川)

23 年度 臼井地区社協事業報告

各事業部長より、「事業部活動内容」特に印象に残ったことなどについての報告です。

【高齢者障がい者福祉事業部】
本年度注目される点は、施設入所や入院等により、「こいの食事会」への参加者が減少するものと思われていましたが、嬉しいことに新しい方々の参加が増えたことです。

これは二年目を迎えた配食サービスや新春及愛訪問活動での成果ではないかと思えます。福祉委員さんらの笑顔で心からの活動も増加の要因になったと思います。

高齢化が急速に進む中、活動の対象の方々も多岐に亘り増えています。二十四年度に向けては

満足なおもてなしが出来る活動に取り組む

高齢者のスローライフにあった新鮮で魅力あるイベントを行う

障がい者・児の福祉活動にも更なる支援を行う
以上が課題となります。

(長谷川)

【いきいきサロン事業部】
各会場九回開催しました。集客人数では差がありました。内容的には各班の持ち味があって、良かったと思っています。

来年度も今年度と同様に進めていきたいと思っています。(松本)

【児童福祉事業部】

主な行事として「親子いもほり会」、「臼井老幼祭り」、「昔の伝承遊び」などを実施、参加しましたが、いずれも無事に終了しました。関係者の皆様の協力のおかげと感謝致します。

中でも親子三代交流行事としての「親子いもほり会」は晴天で、過去最高の二百一名(子どもも九十八名)もの参加があり、「芋の数足りなくなるのでは?」と心配するほどの大盛況でした。

また、中学生がボランティア体験を通して社会参加する事業である「赤い羽根募金」にも参加し、地域福祉事業部との連携も行いました。

昨年の東日本大震災の経験を踏まえ、小中学校や地域諸団体からは様々な企画が立ち上がると思われます。今後はそういったことにも積極的に協力、参加したいと考えています。

(山部)

【研修事業部】

「3・1 東日本大震災 SOS」ぼくたちができる小さなこと」 学習発表会に出席して、研修事業部では、今年度も障がい者や高齢者が抱える諸課題をテーマにし、盲導犬利用者の方のお話を伺ったり、成年後見人制度の研修等を行いました。

そんな中、私は今年二月、臼井小学校の学習発表会に出席したが、印象的な発表だった。

学習発表会は一年、六年生までの児童がクラス毎に一年間の各種学習成果を保護者等に発表するもので、中でも庄巻であったのは六年生全員が合同で発表した「3・1 東日本大震災 SOS」ぼくたちができる小さなこと」であった。

元臼井小の先生が宮城県の大変困った状況にあることを子どもたちは知る。先生の指導もあるが、困っている人達に何が出来るか、何かしたい!という思いをみんなで共有したことが、保護者や他の児童をも巻き込み、結果的に支援金六万四千円と渡波小からの要望でもある雑巾二千五百枚を贈ることが出来た。

六年生ひとり一人が、一年近く取り組んできた交流の成果を誇らしげに発表する姿に感動した。特に、支援金と雑巾の素晴らしい成果物もさることながら、困っている人を助ける、そのことに喜びを感じる感性が育まれていると実感した。社協本来の活動理念は言うまでもなく、困っている人、困ったことを皆で共有し助け合つことである。今一度、社協活動の原点を見つめてみたいと思った。

(宇田川)

【地域福祉事業部】

地域福祉事業部は、活動自体が地域の方々と直接関わるものが多く、今年もにぎわい祭りを始め、募金活動等を行いました。

特に、今年地域別住民福祉懇談会では、東日本大震災を受け、いろいろな意見交換を行うことができました。(大橋)

【広報事業部】

「分かり易く、読みやすい紙面を心がけて」

広報紙は年間三回の発行です。臼井地区社協や各部会活動の様子を一度よいタイミングでお知らせすることが出来ませんでした。その部分をカバー出来ているのが、ホームページかと思っています。ホームページは各部会の活動後、なるべく早い期間にお知らせすることが出来ています。内容についても充実してきています。広報紙では時間のロスがあるため、前もっての予定を掲載することは出来ませんが、ホームページでは各部会の活動予定も載せています。

二十四年度も広報紙とホームページ、それぞれの特徴を生かした広報事業部の活動をしていきたいと思っています。(八田)

臼井地区社協 活動報告

23年度12月以降3月までに行われた活動一覧です。
24年4月からの活動については、決まり次第、回覧・掲示板、ホームページ等でお知らせいたします。

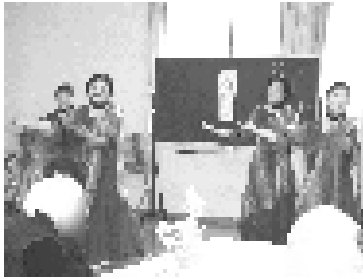
春が巡って、満足そして感動の一日 ~いこいの食事会~

3月1日、恒例のひとり暮らし高齢者の昼食会をいこい荘で開催、30名の方が元気に参加されました。当日はひと足早い「ひな祭り」。ちらし寿司、蛤のお吸い物、さくら餅等、春の彩りを添えた「まごころ弁当」を楽しみました。

午前中は「改訂介護保険制度」「いつまでも住み慣れた町で暮らしていく為には」という内容で、臼井・千代田地区包括支援センターの千羽講師にお話しいただきました。分かりやすく、身近な内容で皆さん納得された様子でした。食事の後は、「酒々井・手話ダンス」のみなさんで幕開け。喜多先生率いる9人のダンサーの出演です。

手話についての話の後は、なんと・なんと、ファッションショ-を思わせる程のカラフルな衣装でダンス。「いい日旅立ち」に始まり「あすという日が」までの8曲のすばらしい踊りに会場が沸き、魅了されました。またひな祭りの歌にあわせて手話での合唱体験も出来ました。

ジャンケン大会もあり、盛り沢山の内容で「また、元気で会いましょう」の合い言葉でお開きとなりました。(長谷川)



手話ダンス

「特養」見学記(高齢者障がい者事業部主催)

2月29日、福祉委員20数名で、昨年11月に開設された特別養護老人ホーム「ちとせ小町」(佐倉市大蛇町)を見学しました。「特養」は要介護1~5の認定が入所の条件のため、平均介護度3.8、車椅子の方は約80%とのこと。ここは入所定員100名(全室個室)で現在では約90名ですが、3月中には満室になる予定だそうで、入所待機者はまだまだ多いのが実情のようです。

施設内は10人程度のユニットが各所に設けられていて、おのこの自由に過ごしていましたが、いろいろなお願い事に動き回る職員の笑顔の対応が印象的でした。

4月からは介護保険法が改正され、各地で包括支援センターとの繋がりが密接になるそうです。それに伴い、今まで以上に地域密着での介護ケア体制が必要となってきます。福祉委員として身近なところにたくさん勉強することがあるのだとつくづく感じた「特養」見学でした。(八田)



春のまごころ弁当



特養「ちとせ小町」見学

23年度	12~3月	臼井地区社協行事一覧	実施内容
12月	1日(木)	王子台小学校子ども遊び	王子台地区社協との協働事業
24年	20日(金)	新春友愛訪問	ひとり暮らしの高齢者(65歳以上対象)
1月	21日(土)	住民福祉懇談会・臼井小学区	テーマ「地域福祉と防災対策」
	26日(木)	3地区社協合同会議	うすいセンター会議(王子台・うすい東・臼井)
2月	4日(土)	うすい荘サロン	太陽の黒点の話・朗読・歌
	18日(土)	稲荷台2丁目町内会館サロン	歌・ゲーム
	19日(日)	第8回理事会	住民福祉懇談会・研修 他
	22日(水)	ニッコー会館サロン	臼井西中の話・歌
	25日(土)	住民福祉懇談会・王子台小学区	テーマ「地域福祉と防災対策」
3月	29日(水)	施設訪問「ちとせ小町」	見学および勉強会
	1日(木)	いこいの食事会	改正介護保険について・手話ダンス他
	8日(木)	バス研修	江戸川区立えがおの家訪問
	17日(土)	第9回理事会	23年度事業報告・愛の箱回収について
	24日(土)	第6回福祉委員定例会	23年度事業報告・愛の箱回収
	24日(土)	救急救命心肺蘇生法講習会	心肺蘇生・AED講習会

ジャスコ・イエローレシートキャンペーンご協力のお礼とお願い

ジャスコで毎月11日にお買い物をする、黄色いレシートが発行されるのをご存じですか？



去る2月11日で23年度後期が終了し、この半年間でレシート金額1,125,301円を投函していただきました。その結果、今回は11,300円分の商品をいただけることになりました。ご協力ありがとうございました。

4月8日(日)の贈呈式後、24年度の「100円喫茶サロンの飲み物・お菓子・紙コップ・うすい荘サロンおみやげ」などに使用させていただきます。なお3月は「東日本大震災子供支援黄色いレシートキャンペーン」となったため、24年度前期は4月10日、11日の2日間から8月11日までとなります。引き続きよろしくお願ひ致します！

いろいろな団体がありますが、ぜひ「臼井地区社会福祉協議会」と書かれた箱へ黄色いレシートをご投函ください！今後ともご協力をお願いします。

***ボランティア紹介* 「いきいきたぐり」**

今回は、23 年度佐倉市社会福祉協議会「福祉功労者表彰会長感謝状」を受賞した「佐倉市民公益活動団体いきいきクラブたぐり」を紹介します。

みんなで楽しいひと時を

いきいきクラブたぐり代表 立原千代子

臼井台区、大名宿、ニッコー、野口会の 4 町会で、平成 16 年からスタートした佐倉市民公益活動団体「いきいきクラブたぐり」は、この地域に住むひとり暮らし高齢者や家で一人になりがちな高齢者等を対象に誰もがみんなで楽しいひと時を過ごせる交流場所として、臼井台青年館において発足いたしました。現在会員は 80 名ですが高齢者とボランティアが毎回 60 名位参加しております。

活動内容は、年度初めに年間計画を立案し、それに従って、テーマソング、季節の歌を歌います。そして月ごとにゲーム、寸劇、民話、手話ダンス、包括支援センターの出前講座、臼井西中生徒との交流等盛りだくさんです。茶話会では、わいわいがやがや。それぞれの方の笑顔がこぼれています。参加者は月 1 度のこの日を楽しみにしています。

「お互いに元気な姿で来月もお会いしましょう」「楽しかったね」と言っていただけの和やかなクラブです。

今年 4 月で 9 年目を迎えます。これからも 4 町会、ボランティアの皆様、民生委員等とのネットワークを大切にしたい取り組みと、そして災害時にも助け合いのできるつながりを育てていきたいと思ひます。



市外バス研修「江戸川区立えがおの家」訪問

～笑顔が溢れていました～



本年度の福祉委員研修として三月八日、参加者二十八名が市の福祉バスで生活介護支援通所施設「江戸川区立えがおの家」を訪問見学しました。
東西線葛西駅に近く、住宅地のご真ん中のきれいな三階建ての施設です。(開設平成十二年・五年前より指定管理者事業)
現在、障がい利用者は九十三名(うち車椅子二十一名)で、一部徒歩通所者を除き五台のバスで送迎しています。一日四、五時間、ウォーキング、陶芸、リハビリ、歩行訓練、牛乳パックから取り出した和紙すき(はがきなどの作成)などを行っているそうです。
個々人の障がい程度によって、カリキュラムを作り(ニーズ別と称していた)きめ細かな介護支援がされていますが、各種の作業をしている障がい者、そしてそれを支える職員の方々の明るい笑顔がとても印象的でした。
立川市で母子家庭の母親が急死し、四歳の障がい児が餓死したニュースが伝えられたばかりです。
今回訪問した施設のように、近隣の人たちの理解と見守りに支えられた施設が、もっとも増えれば、悲しい事件も減るのではないかと思います。
(永井)

本年の福祉委員研修として三月八日、参加者二十八名が市の福祉バスで生活介護支援通所施設「江戸川区立えがおの家」を訪問見学しました。
東西線葛西駅に近く、住宅地のご真ん中のきれいな三階建ての施設です。(開設平成十二年・五年前より指定管理者事業)
現在、障がい利用者は九十三名(うち車椅子二十一名)で、一部徒歩通所者を除き五台のバスで送迎しています。一日四、五時間、ウォーキング、陶芸、リハビリ、歩行訓練、牛乳パックから取り出した和紙すき(はがきなどの作成)などを行っているそうです。
個々人の障がい程度によって、カリキュラムを作り(ニーズ別と称していた)きめ細かな介護支援がされていますが、各種の作業をしている障がい者、そしてそれを支える職員の方々の明るい笑顔がとても印象的でした。
立川市で母子家庭の母親が急死し、四歳の障がい児が餓死したニュースが伝えられたばかりです。
今回訪問した施設のように、近隣の人たちの理解と見守りに支えられた施設が、もっとも増えれば、悲しい事件も減るのではないかと思います。
(永井)

編集後記

私は毎月一回県外に出て、十二丁十三キロメートルのハイキングを楽しんでいます。男三人、女一人の仲間、暑さも寒さも疲れも、声掛け合って励まし合い、お昼は大きな声で歌い、お弁当を分け合い、ワインで乾杯して、歩き切る爽快感を共有します。

最近、多くの方たちが近隣をウォーキングしている姿をよく見かけますが、老化は足から、仲間やご夫婦で市民ハイキングなどに参加して季節の移ろいを感じ、参加された方と仲良くなつて話題を増やしたり、一緒におにぎりを食べたり、次の約束をしたりすれば、ストレス解消にもなります。

ハイキングに限らず、月一回は外ランチを楽しんだり、友人を呼んでティーパーティをしたり、記念日の小さなプレゼントなど、ユーモアで楽しむ日々を作りだしたら老後をもっと豊かに過ごすことが出来るのではないのでしょうか。

『いきいきサロン』は気軽に仲間作りが出来るところですから積極的に参加してほしいと思います。
(し)

ご意見はうすいセンターまで

「うすいセンター」(臼井・王子台・うすい東地区社協合同事務所)
臼井地区社協担当日は
毎週月曜日・木曜日
開館時間: 午前9時半～午後4時半
(12時～1時は昼休憩です)
住所: 佐倉市王子台1 23
レイクピアウスイ3階
電話: 043(462)0743
メールアドレス:
center-usui@catv296.ne.jp
ホームページ:
http://www.catv296.ne.jp/~usui-syakyo/